

## 2018年度 第1回運用容量検討会 議事録

日 時：2018年5月10日（木） 14：00～14：40

場 所：電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）会議室A及び広域本番会議室A（TV会議）

出席者：

坂原 淳史（北海道電力株式会社 流通本部工務部広域システムグループグループリーダー）

矢口 智（東北電力株式会社電力 ネットワーク本部電力システム部給電グループ 課長）

田中 泰生（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループグループ  
マネージャー）

甲斐 静治（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部系統技術グループ課長）

川島 渉（北陸電力株式会社 電力流通部系統運用チーム統括課長）

高垣 恵孝（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループチーフマネージャー）

下根 孝章（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループリーダー）

杉山 弘幸（中国電力株式会社 送配電カンパニー系統技術グループマネージャー）

正岡 寿夫（四国電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部給電グループリーダー）

高崎 真司（九州電力株式会社 送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ長）

飯塚 俊夫（電源開発株式会社 流通システム部変電・系統技術室総括マネージャー）

事務局

竹内 浩（電力広域的運営推進機関 運用部長）

大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）

松尾 工（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）

藤田 利和（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）

大宮 真一（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）

奥山 孝幸（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

黒川 剛志（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

中嶋 駿介（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

資料1-1：連系線の運用容量算出における検討条件について（2019～2028年度）

資料1-2：運用容量算出における課題の検討について

資料2：中部関西間連系線（関西向）における混雑、市場分断発生状況

## 議題1：運用容量の算出について

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ・連系線の運用容量算出における検討条件について（2019～2028年度）

事務局から資料1-1の説明後、議論を行った。

- ：4月2日から4月13日まで、検討条件案に対する要望を募集したが、特に要望は無かった。従って、今年度の検討条件はこの案の通りとする。

- ・運用容量算出における課題の検討について

事務局から資料1-2の説明後、議論を行った。

- ：今年度の課題の周波数上昇限度の考え方の整理に関して、本日の12時から13時の断面において、中国九州間連系線の運用容量の運用制約が初めて周波数上昇制約となった。太陽光のピークと真昼の需要減少が重なったためであり、今後、太陽光発電の接続量の増加や、太陽光の発電量が増加する時期を迎えるため、頻度が増す懸念がある。このため、検討のスピードアップをはかる必要があると感じている。

- ：問題意識について承知し、検討を進めている。早めにご相談させていただきたいため、よろしく願います。

- ：EPPSの織込みの整理については、昨年度はFCのEPPSの整定の検討等もあることから、東京と中部が幹事をしたが、今年度は中西地域全体の周波数低下に関する考え方の整理が必要と考える。継続課題の「需要想定方法の整理」にも関係するため、関西が幹事をするのでよいか。

- ：よい。

- ：フリンジの算出方法の見直しについては、近年、フリンジが大きくなってきているように感じており、急増した太陽光等の変動電源の影響があるかどうかなど、分析する価値はあると考えている。

## 議題 2：その他

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ・ 中部関西間連系線（関西向）における混雑、市場分断発生状況について事務局から資料 2 の説明後、議論を行った。
- ：2017年10月より運用容量を見直す際に想定した「中部関西間連系線の混雑と市場分断の発生率」について、10月から2018年3月までの発生実績を調査した。その結果は、当初の想定どおりであるが、今後も引き続き、混雑と市場分断の発生実績を注視していく。

以上